



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	雜報
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 7, 275-278
Issue Date	1939-03
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/10673">https://hdl.handle.net/2115/10673</a>
Type	other
File Information	7_p275-278.pdf



# 法經會記事

法經會論叢第六輯發行後今日に至るまでに、本會は九回の例會を開いて會員の研究報告を行ひ、尙其の間二氏の自然退會を見た。即ち次の如くである。

## 昭和十三年

第七十八回、二月二十六日、池田善長「北千島の話」  
第七十九回、三月二十六日、小林巳智次「農業法の概念」  
(前會員早川三代治氏を會友に推薦す)

第八十回、五月十四日、中島九郎「佐藤信淵先生に就いて」  
第八十一回、六月二十五日、上原敏三郎「南洋群島の土地制度」  
第八十二回、十月二十九日、土屋四郎「フランス民法に於ける離婚原因」會我孝之「日本諸學振興委員會第一回經濟學會に出席して」

第八十三回、十一月二十六日、伊藤俊夫「南洋群島特に東カ  
ロリン及マーシャル諸島の旅」  
第八十四回、十二月二十一日、川村琢「北支出移民の原因」  
名譽會員高岡熊雄氏の南洋旅行よりの歸學を歓迎し、會員  
池田善長、工藤元兩氏を送別するための晚餐會を十一月二十  
二日學内職員集會所に於て催したが盛會であつた。池田、工  
藤兩氏の退會により會員現在數十五名となつた。

## 法經會記事

## 昭和十四年

第八十五回、一月二十八日、佐藤昌彦「北海道に於ける森林  
盜伐の個別的研究」(前會員工藤元兩氏を會友に推薦す)  
第八十六回、二月二十八日、中島九郎「我國統制經濟に就いて」

## 寄贈雜誌

- |          |               |
|----------|---------------|
| 法律時報     | 日本評論社         |
| 主計會報告    | 海軍省主計會        |
| 同志社論叢    | 同志社法學會        |
| 鳥取農學會報   | 鳥取農學會         |
| 關西大學研究論集 | 關西大學々々會       |
| 關西大學々々報  | 關西大學々々報局      |
| 民間傳承     | 民間傳承の會        |
| 早稻田商學    | 早稻田商學同政會      |
| 大倉學會誌    | 大倉高等商業學校研究室   |
| 卸賣(批發)物價 | 滿洲國經濟部商務司     |
| 零(小)賣物價  | 同             |
| 研究論集     | 高岡高等商業學校研究會   |
| 經濟集誌     | 日本大學商經學部商經研究會 |
| 北海道經濟史研究 | 北海道經濟史研究所     |
| 國民精神文化   | 國民精神文化研究所     |

□法經會論叢總要目 (自第一輯 至第六輯)

第一輯

北海道に於ける農作中心の移動に關する研究

荒又 操

頁

フェルナー教授の國民財産評價論

早川三代治

一

古典的議會制度の顛落(執政府の擴大強化的傾向)

小林巳智次

七二

我國の漁業勞働紹介制度

今田清二

一〇七

價值論(ブラグマティック經濟學のプロレゴメナ)

松田武雄

一三三

前松前藩の産業政策(序說施政方針)

南 鐵藏

一五二

清算法人の性質

佐藤昌彦

一六九

北海道アイヌの社會生活

高倉新一郎

一七九

乳牛飼養育成の經濟問題

渡邊 侃

一八六

第二輯

樺太の拓殖及農業に就て

中島九郎

一

クルノーの國際貿易理論に對するパレットの批評

早川三代治

七〇

二個の農家經濟調査例示

渡邊 侃

七五

續本邦に於ける米段當收量の推移と動搖

荒又 操

一〇五

明治維新前北海道に於ける旅人の出入改め制度に就て

南 鐵藏 一三二

三縣時代に於けるアイヌ勸農策

高倉新一郎 一七〇

犯罪者の自己辯護

佐藤昌彦 一七五

農場規則の法律的的研究

小林巳智次 一九〇

フランス法に於けるアバートメント所有權に就て

土屋四郎 二二一

土地に關する經濟學的一考察

松田武雄 二五七

ファッション伊太利の人口政策

上原轍三郎 二八三

第三輯

伯國の移民制限問題

上原轍三郎 一

東北地方に於ける小作取締制度

小林巳智次 三

旭川市に於ける所得分布

早川三代治 四

農村社會學に於ける基礎的諸問題に就て

池田善長 六

北米合衆國に於ける所謂 Voluntary Domestic Allotment Plan に就て

伊藤俊夫 七三

兒童の證言

佐藤昌彦 一七

世界の漁獲統計資料

今田清二 三三

明治維新前の北海道租稅制度志要

南 鐵藏 三三

An Introduction to Land Economics.

Takeshi Yajima 一七一

第四輯

農家の生計標準

渡邊 侃 一

江戸時代に於ける蝦夷地移民論 高倉新一郎 三  
滿蒙農業移民事業の現段階に於ける民間會社の意義 矢島 武 二六

農村集團の構成に就て 池田善長 四四  
鮭鱒漁業と蕃殖保護の實際 今田清二 七〇

フランスに於ける職能代表論の諸傾向 小林已智次 七〇  
北米合衆國に於ける農作物收穫豫想調査 荒又 操 二七

農産物價格豫測の格率 伊藤俊夫 二六  
北海道經濟文化の基礎的條件 南 鐵藏 二七

佐藤男、稻田男共著「世界農業史論」 中島九郎 一九  
田邊著「戦後歐洲に於ける土地制度改革史論」 川村 琢 二五

山田譯「ゼドルマイヤー小農經營學」 荒又 操 二四  
高岡博士「樺太農業殖民問題」 上原轍三郎 一七

第五輯

百貨店に於ける特殊犯罪 佐藤昌彦 一  
權利濫用理論と其の發展 小林已智次 二三

農業變動と景氣循環との關係 伊藤俊夫 三三  
臺灣と北海道との農業上生産力の比較 渡邊 侃 三五

滿洲農業移民の一形態 上原轍三郎 四四  
農村信仰の諸問題 池田善長 九四  
埃太利の植民會社案ハンス・デハントの所説 矢島 武 二二

小作規則の發展並に比較に關する研究資料

『農政學講義』渡邊侃先生の新著 小林已智次 一四  
タールハイム著『農業政策』 伊藤俊夫 一八一  
川村 琢 一八五

第六輯

北海道開拓極初期に於ける土地制度 上原轍三郎 一  
中央卸賣市場制度の中都市的修正に伴ふ諸問題 池田善長 七〇

宣傳に就ての一考察 佐藤昌彦 六三  
農民信仰の實證的一研究 小林已智次 七五

伊太利の「綜合的土地開拓令」 矢島 武 一〇三  
ドイツに於ける農業市場政策の推移 川村 琢 一〇七

開拓農業に關する覺書 渡邊 侃 一三三  
トマス公正價格論 工藤 元 一四九

農村犯罪の一側面、佐藤譯「殺人の心理」 小林已智次 一五七  
若木譯「ルース屬領統治論」 矢島 武 一六三

小林著「農業法研究」批評 土屋四郎 一六六  
奥田著「臺灣の農業」 伊藤俊夫 一七〇

## 編輯後記

編輯とは、編輯者が、題目と執筆者を決定し、原稿を依頼し、かくて集つたものを、適宜に配合する事を言ふのが本來であらう。所が、法經會論叢の編輯丈けはそうではない。執筆者は會員に限られて居るから、會員の各位に、任意の題目で執筆を御願ひするに止まるのである。執筆は會員の義務であると考ふべきであるから特別の事情のない限り、會員の原稿は集まるのである。だから編輯者に残された仕事は、單に集つた原稿の順序を定めるにあるのである。従つて論叢の出來榮えのよしあし、内容の如何に就ては、編輯者の責任は全然ないわけである。所が、論叢を世に送るに當つては、一體どんなものが集つて來るかが編輯者には大いに心配になるのである。夫は、各々の原稿の内容如何に就てではなく、集つた原稿が、全體として一個の法經會論叢を構成するか否か、換言すれば、北大の唯一の人文科學の研究發表が、それに相應はしく、まとまつて出來上るか否かに就て、甚だ心配になるのである。

本論叢は此の點に付ては編輯者の心配などは問題とならず、まことに見事に出來上つた。本論叢に盛られた研究發表は、經濟理論に關するもの、北海道東北農山村の實証的研究、外地に關する研究の三部門に分ける事を得やう。理論的研究は學者としての第一の任務であるが、土地に即した實証的研究は又ゆるがせに出來ない。更に外地に關する研究が、我國の將來の發展に寄與する事は言ふ迄もなからう。之等の缺くべからざる三方面的の研究が、黙つて居ても自然と集つて來て、渾然たる一體をなして、本論叢を構成した事は、北大の人文科學方面に於ける眞摯なあゆみを如實に示して居るものではないか。編輯者は論叢が立派に出來上つた事について限りない喜びを感じると共に、此の喜びが編輯者丈けのものでない事を堅く信じて居るものである。